

Today's goal

Svelte の最新情報をキャッチアップできる

自己紹介

- 山下 裕一朗 (baseballyama)
- 株式会社フライル
- Svelte コアチームメンバー





Agenda

- Svelte とは
- 最新情報の共有
 - リアクティビティ (Runes)
 - Slot / Snippets
 - イベントハンドラー
 - その他

Svelteとは

- フロントエンドを構築するためのフレームワーク
- HTMLのスーパーセットを謳っている
- コンパイラを使用する点が他のフレームワークと大きく異なる
- コンパイラを使用することで軽量なランタイムをエンドユーザーに配信できる

強化されたチーム

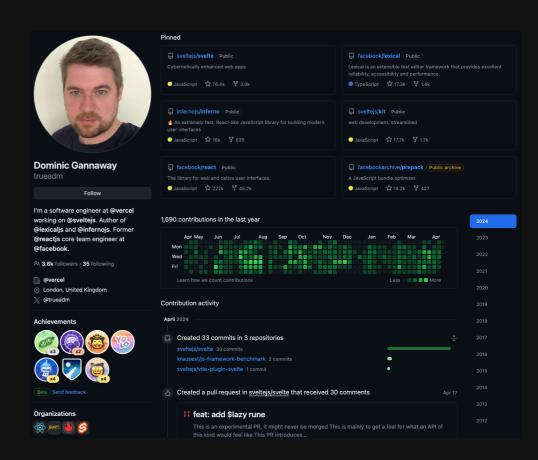
- チームの変更
 - Dominic Gannaway が Vercel に入社
 - 元 Reactコアチームメンバー
 - lexical と inferno の作者
 - Vercel の Svelte チームは3名に



Rich Harris



Simon Holthausen



Svelte 5

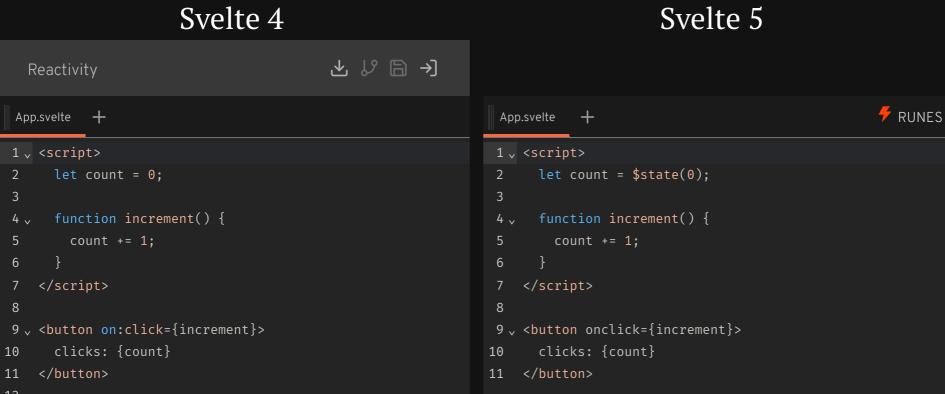
Svelte 5 は これまでの反省やユーザーからの要望を踏まえ 0から書き直した

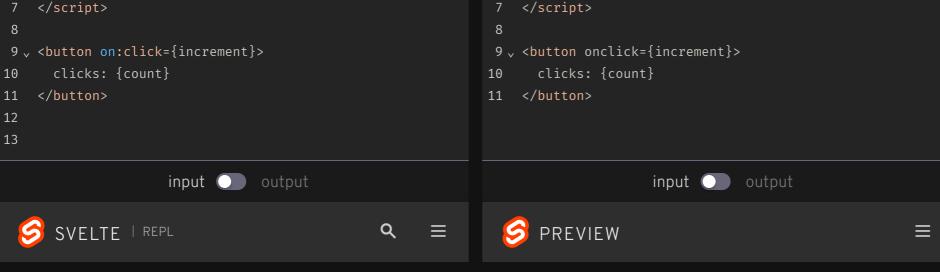
Svelte 5

Svelte 5 での変更点を見ていきましょう

- 最も大きな変更の1つ
- Svelte 4 まではリアクティビティには \$ を使用していた
- Svelte 5 では Runes と呼ばれるマクロを使用する

基本的なステート

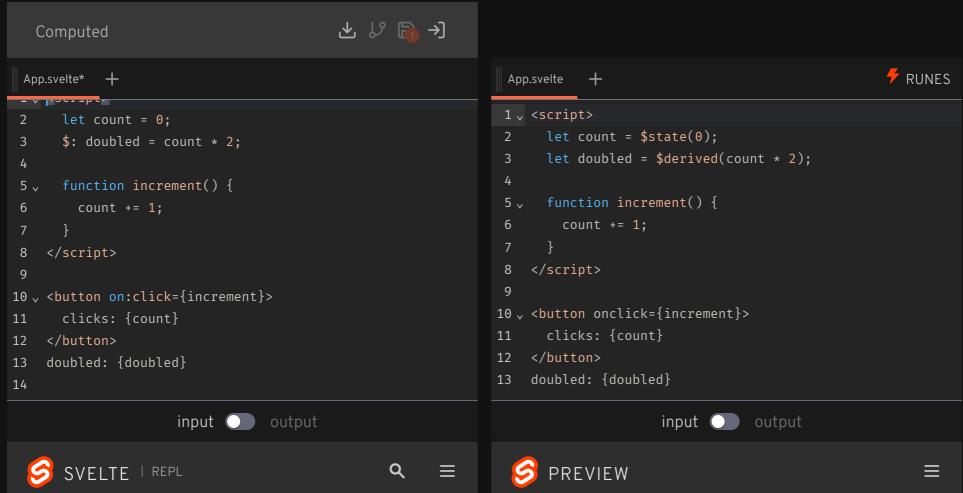




算出フィールド



Svelte 5



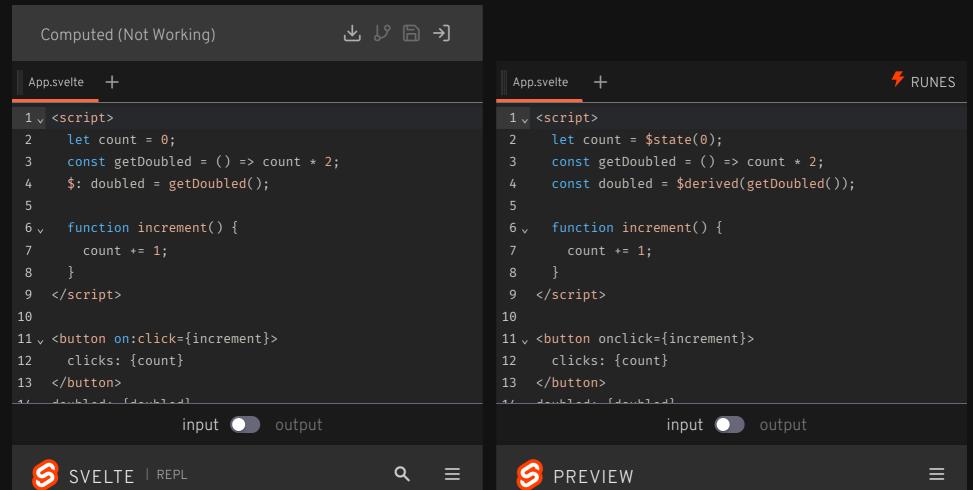
```
<!-- 一部抜粋 -->
<script>
let count = 0;
- $: doubled = count * 2;
+ let doubled = $derived(count * 2);

function increment() {
   count += 1;
  }
</script>
```

これによりこんなことができるようになります



Svelte 5

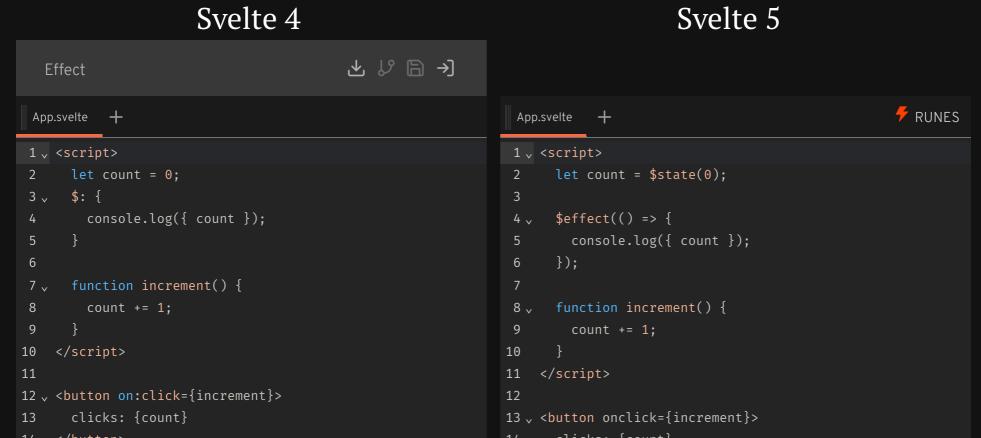


```
<!-- 一部抜粋 -->
<script>
let count = 0;
const getDoubled = () => count * 2;
- $: doubled = getDoubled();
+ const doubled = $derived(getDoubled());

function increment() {
   count += 1;
}
</script>
```

- Svelte 4 では依存関係の追跡をコンパイルタイムで実施していました
 - 推移的に呼び出される関数内でのステートの書き換えに追従することができませんでした
- Svelte 5 では依存関係の追跡をランタイムで実施します
 - これにより推移的に呼び出される関数内でのステートの書き換えにも追従できるようになりました
 - これにより .svelte.(js|ts) ファイルでもリアクティビティを使用できるようになりました
 - これにより composables によるロジックの共有化がより柔軟になりました

エフェクト関数







output



input (



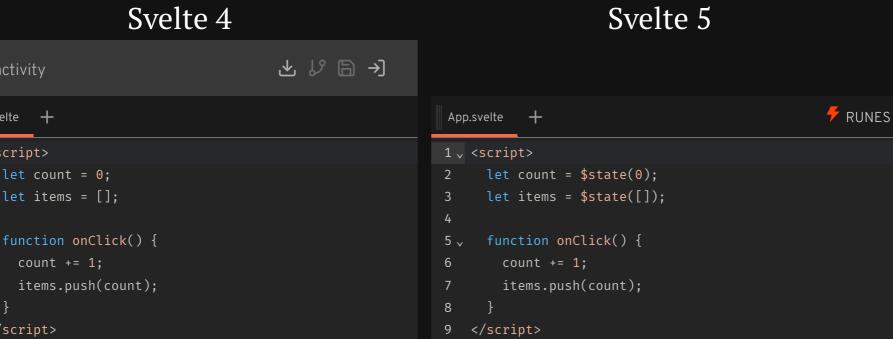
```
<!-- 一部抜粋 -->
<script>
    let count = 0;
- $: {
-         console.log({ count });
- }
+ $effect(() => {
+         console.log({ count });
+ });

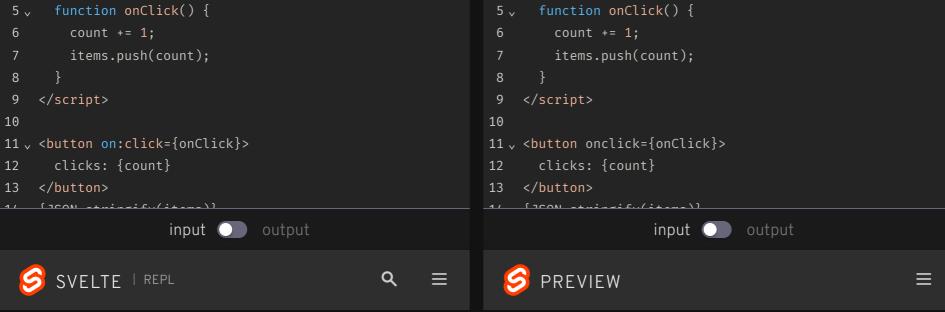
    function increment() {
        count += 1;
    }
</script>
```

オブジェクト

Runes (オブジェクト)

- また、リアクティビティがよりきめ細かになりました
- Svelte 4 までは、リアクティブを発火する方法は再代入のみでした
- Svelte 5 では、push 関数などの破壊的関数の呼び出しでも発火します





Reactivity

App.svelte

1 < script>

Runes (その他)

- beforeUpdate / afterUpdate は廃止されます。
- \$effect.pre / \$effect を使用してください。

■ 全 Runes API は以下でご確認ください。

https://svelte-5-preview.vercel.app/docs/runes

Slot / Snippets

■ JSX が <template> よりも優れている点の1つはファイル内で要素を簡単に使い回すことができる点です。

■ Svelte 5 では、このJSXの利点を取り入れることに成功しました。

```
<script>
  const data = ["Alice", "Bob", "Charlie", "David"];
</script>

{#Snippet item(name)}
  <div>{name}</div>
{/Snippet}

{#each data as name}
  {@render item(name)}
{/each}
```

Slot / Snippets

■ この Snippet は子コンポーネントに渡すことができます

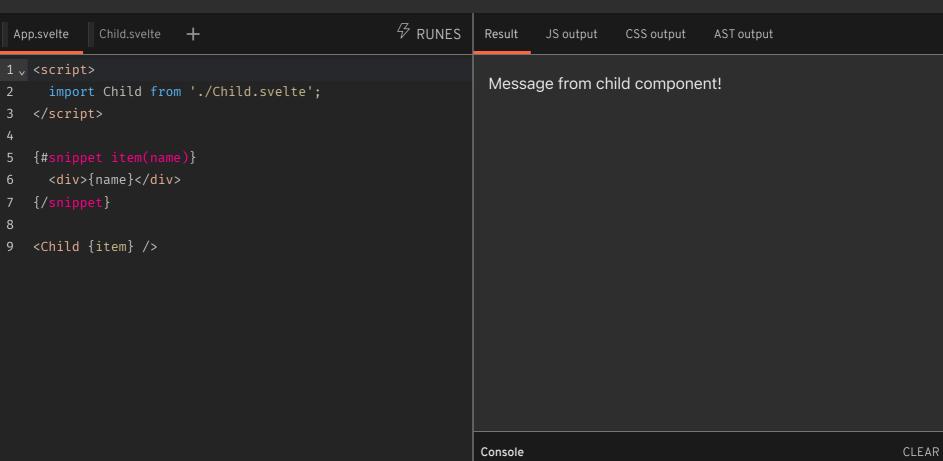


WORK IN PROGRESS!

Docs Status • Svelte • 🛤 🌘 🤅







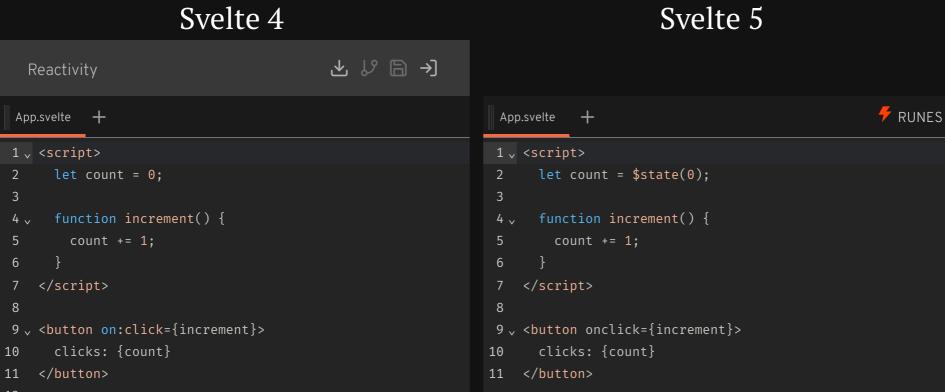
Slot / Snippets

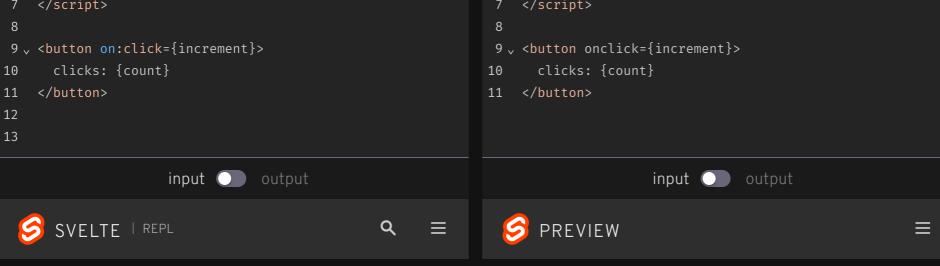
■ 詳細は、以下をご確認ください。

https://svelte-5-preview.vercel.app/docs/Snippets

イベントハンドラー

■ イベントハンドラーの書き方が若干変わりました





```
<!-- 一部抜粋 -->
- <button on:click={increment}>
+ <button onclick={increment}>
    clicks: {count}
</button>
```

イベントハンドラー

- この変更により、イベントは props と同様に記述できるようになりました
- また定型的な createEventDispatcher の使用は不要になりました。



WORK IN PROGRESS!

Docs Status • Svelte • 🙉 🌘 🕓





App.svelte +	F RUNES	Result	JS output	CSS output	AST output
<pre>1</pre>		clicks:			
<pre>9 < <button {onclick}=""> 10 clicks: {count} 11 </button></pre>					
		Console			CLEAR

```
<!-- 一部抜粋 -->
- <button onclick={increment}>
+ <button {onclick}>
    clicks: {count}
</button>
```

イベントハンドラー

- また、子コンポーネントが任意のイベントを受け取れるようになりました
 - これは特にUIライブラリの作者にとって待望の機能でした



19 v <div>

WORK IN PROGRESS!

Docs Status • Svelte • 🛤 🌘 🕓





App.svelte	F RUNES	Result	JS output	CSS output	AST output
<pre>1</pre>		clickCo	child Compon Dunt: 0 kCount: 0	ent	
18		Console			CLEAR

イベントハンドラー

- Svelte 4 では、各DOMにイベントがアタッチされていました
- Svelte 5 では、アプリケーションルートにのみイベントをアタッチします
 - 一般的に Event delegation と呼ばれる手法です
 - これは、React や Solid で用いられている手法です

イベントのアタッチは時間のかかる処理であるため、特に大規模なDOMでレンダリング速度やハイドレーショ ン速度に違いが出るはずです。

また、メモリ使用量にも良い影響があるはずです。

非ドキュメント情報

テンプレート部での TypeScript

- テンプレート部で TypeScript が使用できるようになりました 🔀
- acorn-typescript を使用しています



WORK IN PROGRESS!







App.svelte +	arphi runes	Result	JS output	CSS output	AST output	
<pre>1</pre>	Bob" }, { nar	• Bok	o arlie			
		Console				CLEAR

CSSパーサー

- Svelte 4 までは、 css-tree を使用してスタイル部を解析していました
- Svelte 5 では、独自のコードで CSS を解析しています
 - Svelteコンパイラは、CSSセレクタ部は重要ですが、宣言部は基本的に何もする必要がありません
 - よって、一般的なCSSパーサーよりも簡易なパーサーで充分でした
 - これにより将来のCSSの新仕様に対して簡単に対応できる可能性が高まりました
 - また、当時コンテナクエリをサポートするCSSパーサーはありませんでした
 - 更に、このメリットを活かして、子コンポーネントにスタイルを渡す方法を検討しています(遂に!))

型定義ファイル

- Svelte 5 では dts-buddy というライブラリを使用して型を自動生成しています
- これにより、1.1MB あった型情報が 25KB になりました
- また、関数から宣言先に飛ぶ際、型宣言ではなく関数自体に飛べるようになりました

参照: https://github.com/sveltejs/svelte/pull/8702

非ドキュメント情報

HTMLのスーパーセットとしての Svelte

このコードをブラウザで表示すると...

<div /> hello!

このようにレンダリングされます...

<div>hello!</div>

しかし Svelte 4 はこうレンダリングしていました...

<div></div>
hello!

- <div> などの 非 void HTML タグは自己終了できません
- Svelte 5 は <div /> のようなコードを警告するようになりました

参考: https://github.com/sveltejs/svelte/pull/11114

Svelte 4 からの移行

- Svelte 5 は Svelte 4 までの機能をサポートしています
- 1コンポーネントずつ漸進的に移行可能です
- 実際に私も個人的に管理している SvelteKit アプリを移行しましたが、ライブラリバージョンを Svelte 5 に上げただけでも正しく動作しました
- Svelte 5 では Svelte 4 までのテストが通ることを確認しています
- 詳細は ステータスページ から確認可能です



WORK IN PROGRESS!

Docs Status • Svelte • 🙉 🌘 🕓





App.svelte +	₹ RUNES	Result	JS output	CSS output	AST output	
1 v <script></td><td></td><td></td><td>_</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>2 let count = 0;</td><td></td><td>clicks:</td><td>0</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>4 v function increment() {</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>5 count += 1;</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>6 }</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>7 </script>						
8						
9 <pre>operation on:click={increment}></pre>						
10 clicks: {count}						
11						
12						
13						
		Console				CLEAR

ベンチマーク

Svelte は、ベンチマークを追求するのではなく、実際的な開発者体験とユーザー体験を追求しています。よって、ベンチマークを重要視していません。この考え方に基づき、この発表でもベンチマークは紹介しません但し js-framework-benchmark の結果はかなり良いです。
(ベンチマーク用の関数を一切用意していないにも関わらず!)
興味のある方は一度ご確認ください。

まとめ(今日ご紹介したもの)

- (チーム体制) 元 React コアチームのメンバーが参加しフルタイム3名体制になった
- (リアクティビティ) 依存関係の追跡がランタイムになったことで柔軟性が向上した
 - js/ts ファイルでもリアクティビティを使用できるようになった
 - Array / Map の破壊メソッドの利用でもリアクティブになった
 - 高度な機能も登場し、必要に応じてより細かな制御も可能になった
- (新しい slot) Snippets によりSvelteコンポーネント内で再利用可能な部品を定義できるようになった
- (イベントハンドラー) 記述が単純になり柔軟性が向上した
 - createEventDispatcher は不要になった
 - イベントのアタッチがトップ要素に移譲されることで性能・メモリ効率が向上した
 - Uコンポーネントは任意のイベントを受け付け可能になった
- テンプレート部の TypeScript 対応
- 自作のCSSパーサーを採用
- 型定義ファイルの改善
- Svelte 4 から漸進的に移行可能

まとめ

これ以外にも沢山の改善が導入されています。ぜひ公式ドキュメントを一読ください。

公式ドキュメント: https://svelte-5-preview.vercel.app/docs/introduction

まとめ

Svelte 4 と Svelte 5 の書き方の対比表は 以下のサイトがよくまとまっています。

Component party: https://component-party.dev/?f=svelte4,svelte5

その他

今日紹介できませんでしたが
Next.js/Nuxt の Svelte 版である SvelteKit も
昨年末にメジャーバージョンアップをしました。
こちらも一度ドキュメントを参照ください。

また Svelte 用の ESLint Plugin も提供しているので 是非ご活用ください

SvelteKit: https://kit.svelte.dev/

SvelteKit (日本語版): https://kit.svelte.jp/

ESLint Plugin Svelte: https://github.com/sveltejs/eslint-plugin-svelte